



暮らしを便利にする仕事

自治行政局住民制度課住民台帳第三係長

平野 聡司

HIRANO Satoshi

平成18年 4月 総務省採用
自治行政局選挙部管理課
平成19年 10月 群馬県総務局市町村課
平成20年 8月 群馬県産業経済部商政課
平成21年 10月 地方公共団体金融機構経営企画部企画課
(兼 経営企画部リスク管理統括室)
平成22年 4月 同 経営企画部リスク管理統括課
平成24年 4月 自治行政局住民制度課外国人住民基本台帳室主査
平成24年 8月 自治行政局住民制度課外国人住民基本台帳室
外国人住民係長
平成26年 4月 自治行政局行政課総務室総務係長
平成28年 4月 現職

■未来を変えていく仕事

皆さん、マイナンバーカードはお持ちですか？マイナンバーカードは、マイナンバーが記載された顔写真付のカードで、本人確認のための身分証明書として利用できるほか、自治体サービス、e-Tax等の電子証明書を利用した電子申請等、様々なサービスにもご利用いただける非常に便利なカードです。私の担当業務は、このマイナンバーカードの交付の促進です。市区町村が円滑にマイナンバーカードの交付ができるよう、予算を確保したり、広報用の媒体を作成したりしています。

どうすればもっとマイナンバーカードを取得してもらえるのかを考え、効果的な施策を打ち出す事は、確かにとても難しいことではありますが、このような何か新しい事を始めようとする仕事は同時におもしろさも感じる事が出来ます。

いつの日か、国民全員がマイナンバーカードを持ち歩く様な世の中になることを信じて、日々の業務に取り組んでいます。

■「ふるさと」への想いを胸に

私は入省2年目で群馬県庁に出向しました。群馬県では、市町村合併の推進や補助金業務の他、中小企業の支援など幅広い分野の仕事を経験させていただきました。また、県庁のサッカー部に所属し、自治体サッカー大会で全国大会に出場するなど、当時の仲間や思い出は今でも大切な宝物であり、かけがえのないものとなっています。

そんな群馬県は自分にとって第二のふるさととなっています。総務省の職員は、そんな「ふるさと」をいくつも抱え、その「ふるさと」への想いを胸に仕事をしています。地方での現場経験と地方に対する愛着こそが、総務省職員の仕事に対する熱意の源なのだと思います。

みなさんも是非総務省でたくさんの「ふるさと」を作り、我々と同じような想いを胸に抱いて仕事をしてみませんか。他の職場では味わうことの出来ない総務省の魅力を感じることができますよ。



Private Life

週末は主に、3才になる子供の世話を楽しんでいます。保育園のイベントに参加したり、公園で一緒にサッカーをしたり。ほとんど振り回されてばかりですが、子供の成長を実感することができる事は休日の楽しみの一つです。こうして子供から元気をもらいながら、日々の業務に励んでいます。



Question & Answer

Q. 地方自治体への赴任経験が総務省のどのような仕事に活かしましたか？

A. 総務省での仕事の中で、最も大きな経験の一つと言えるのが「地方勤務」です。それまでは、主に都道府県を相手に仕事をしてきましたが、都道府県で仕事をする事になると、総務省はもちろん、市町村を相手に仕事することになります。特に、普段から住民と近い距離で仕事をしている市町村の職員の方々は、私たちとはまた違った視点や考えを持っていて、とても良い刺激を得られますし、そうした地方の実情をよく理解することは、地方制度を所管する総務省の職員として非常に重要な事だと思います。

Q. 仕事をする上で心がけていることは？

A. 自分の仕事国民のためにどのように役立っているのかを考えながら仕事をしています。目の前の仕事だけに集中するのではなく、この仕事はどう国民生活に繋がっていくのかを意識しながら仕事をすると、仕事のやりがいやおもしろさをより感じる事が出来ると同時に、恥ずかしい仕事をしてはならないという気持ちに駆り立てられ、身が引き締まります。